

第6学年1組 国語科学習指導案

【日時】令和2年11月12日(木) 14:30~15:15 【場所】多目的室I・II 【指導者】白井 雄大

本授業の主張点

自分の生き方・考え方が伝わる物語の構成を、本単元で習得した「読みの観点：周囲の人物が中心人物へ与える影響から、物語の主題を捉える」を応用して考える児童の姿をご覧ください。

1 単元名 生き方を考える『海の命』(光村図書 6年)

2 単元の構想

(1) 児童について

本学級の児童は、『帰り道』や『やまなし』などの文学的文章を通して、言葉による見方・考え方を働かせ、「読みの観点」を習得してきた。『帰り道』では、「読みの観点：視点人物が異なると、出来事の見え方も異なる」を、律と周也の視点で日記を書く中で習得した。また、『やまなし』では、「読みの観点：作者と作品を関連付けて読む」を、初発の感想で挙げた疑問に答える解説書作りを通して習得した。

卒業が見えてきた現在、児童は既習の「読みの観点」を活用し、文章中の言葉を根拠として文学的文章を読むことができつつある。また、文学的文章や説明的文章を読み、習得した「読みの観点」を日常に応用している児童も多く見られる。例えば、日頃行っている作文や修学旅行後に書いた新聞、社会科の討論会での話し方などである。一方で、全員が「読みの観点」を日常に応用する経験が十分ではない。今後は、中学校進学を見据えて、家庭学習や他教科、特別活動などの場でも「読みの観点」を自ら応用する姿を期待している。そのためにも、「読みの観点」を習得・活用・応用するといった一連の経験を積む必要性を感じている。

(2) 単元について

本単元は、『海の命』を用いた学習目標Ⅰ「『海の命』とは何か、登場人物を関連付けながら推測し、ポスターにまとめよう」と、学習目標Ⅱ「自分の生き方・考え方を、中心人物に影響を与える周囲の人物を通して表現しよう」に分けて構成する。

学習目標Ⅰでは、海に生まれた太一が、父の死や与吉じいさの教えの狭間で葛藤しつつも、村一番の漁師に成長する姿を描いた『海の命』を用いる。ここでは、父を超える「一人前の漁師」と千匹に一匹しかとらない「村一番の漁師」を比較したり、「クエ=海の命」が象徴しているものについて考えたりしながら、太一的心情や選択に寄り添い、『海の命』という物語が伝える生き方・考え方に着目させたい。しかし、本教材は、中心人物である太一的心情が、5場面を除き直接的に明記されている場面が少ないという特徴がある。与吉じいさや父、母、クエとの関係の中で、それらの人物がどのような生き方・考え方をしているのか、それが中心人物の心情にどのような影響を与えたのかを推測する必要がある。このことから、「読みの観点：周囲の人物が中心人物へ与える影響から、物語の主題を捉える」の習得・活用が可能な作品だと考える。

学習目標Ⅱでは、児童自身の小学校生活6年間を総括し、自分が大切にしている生き方・考え方を表現した物語を書き、学年文集としてまとめる場を設定する。その際、学習目標Ⅰで習得した「読みの観点：周囲の人物が中心人物へ与える影響から、物語の主題を捉える」を応用して物語を書くように促す。これにより、本学級の児童の課題解決に適した単元設定になると考える。

(3) 指導について

導入では、題名読みをしたうえで『海の命』が象徴するものに対する意識を高め、児童の初発の感想を基に学習目標Ⅰを作り、本単元での学びを見通すことから始める(意識化)。本教材は、上記の通り難解な要素が多く、一読しただけでは何を言いたいのか理解できない児童が出ることが予想される。そこで、初発の感想から疑問点を集め、集約して学習課題へとつなげる。同時に、言語活動として、作品の主題や中心人物の変容、人物関係などを、各生活班1枚のポスターにまとめることを伝え、単元に見通しをもてるようにする(意識化)。その際、既習教材『走れ(東京書籍4年上)』を用いた言語活動モデルを示し(可

視化), 学習目標 I の計画を立てる。なお, 本単元全体の流れは, 図 1 (紀要参照) に示す通りである。

学習目標 I では, 人物関係や中心人物の変容に着目しながら, 登場人物それぞれの人物像と太一との関係性を読み取る(可視化)。例えば「思考スキル: B 関連付ける」を用いて, 周囲の人物の言動を根拠に, 太一に与えた影響や, その時々々の太一の心情を推測できるようにする。また, 5 場面における太一の葛藤を「思考スキル: A 比較する」を用いて考え, 物語の主題に迫れるようにする。

学習目標 II の「予期」段階では, 昨年度同様の学年文集(5 年次に作成した学年全員分を綴じた物語集)を作ることを伝える(社会化)。今回は, 『海の命』の主題を捉えた経験を応用して書くように促す。モデル構成メモを示し, 見通しをもたせたいうで, 既習の「読みの観点」も含めて, 意識して使う「読みの観点」を想起・選択させる。その後, 実際に構成メモを考える。構成メモは, 学習目標 I で扱ったポスターを改変したものを用意し, 主題や人物関係, 中心人物の変容といった, 読む中で着目してきた観点を応用できる手立てとする。

「再考」段階では, モデル構成メモを示し, 伝えたい生き方・考え方が伝わるか学級全体に問う。その際, 周囲の人物の言動で迷っていることを伝え, どのような関わり方を表現すると良いかアドバイスを請うことで, 話し合いの着眼点に気付かせる。その後, 児童自身の構成メモを二次教材化し, 「伝えたい生き方・考え方は伝わるか」「周囲の人物が中心人物に与える影響は, 生き方・考え方に繋がっているか」について交流させる。受けた他者の意見を基に, 必要に応じて構成メモを加除修正し, 一定期間の中で宿題として清書するように伝える。

「評価」段階では, 完成した物語を読み合い, 周囲の人物の言動から生き方・考え方が影響を受けているか, 他者の評価をもらう場を設定する。最後に「読みの観点」の更新をメタ認知できるように, 自分の物語を, ①生き方・考え方は伝わったか, ②中心人物に影響を与える周囲の人物を書けたか, ③それは, 生き方・考え方を表現するために効果的に働いたか, という 3 種類の評価項目をもって振り返らせる(社会化)。

3 単元の目標

学習目標 I 『海の命』に書かれている主題を, 周囲の人物がもつ見方・考え方や中心人物に与えた影響から, 具体的に想像することができるようにする。

学習目標 II 自分が大切にしている生き方・考え方を設定し, それを周囲の人物の言動を通して表現する物語を書くことができるようにする。

4 単元の評価規準

ア 比喩や反復などの表現の工夫に気付いている。

【知識・技能】

イ 登場人物の人物像や物語の全体像を具体的に想像し, 物語の主題を考えている。

【思考・判断・表現】

ウ 物語に書かれている登場人物の生き方・考え方, 人物同士の関わりについて, 友達と話したり, ポスターに書いたりしている。

物語を書く中で, 他者と交流したり, 内容を考え直したりして, より良い物語にしようとしている。

【主体的に学習に取り組む態度】

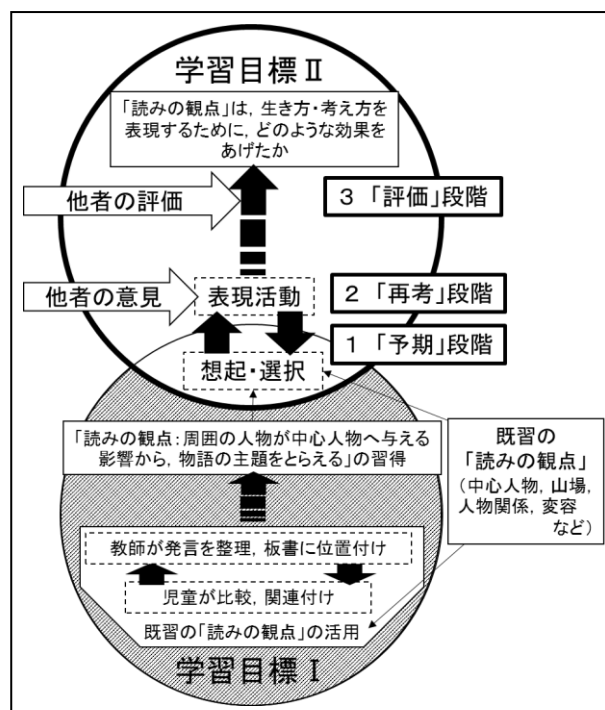


図 1 本単元の流れ

5 単元の計画（全8時間）

段階	時	主な学習活動（○）	教師の働きかけ（○）と主な評価規準（◆）【観点】
学習目標Ⅰ 「海の命」とは何か、登場人物を関連付けながら推測し、ポスターにまとめよう。			
	1	<ul style="list-style-type: none"> ○ 『海の命』の題名から、何を表しているか想像する。 ○ 『海の命』を読み、初発の感想を書く。 ○ 全員で課題を整理する。 ○ 学習目標Ⅰと学習計画を確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 本教材の主題に意識が向かうように、題名読みを仕組む。 ○ 児童が主体的に学習できるように、疑問や思いを表出させる。 ○ 児童が見通しをもって学習できるように、初発の感想を基に学習目標Ⅰを作る。また、既習教材『走れ』を用いた言語活動のモデルを示し、逆向き設計で学習計画を立てる。
	2 3	<ul style="list-style-type: none"> ○ 太一と父、与吉じいさ、母を関連付けて読み、人物同士の関係性を図化して、班ごとにポスターにまとめる。 ○ 周囲の人物の言動が、太一にどのような影響を与えたかを想像する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 父については、「海のめぐみ」を信条としていた姿と、クエを仕留めようとした姿を対比させる。 ○ 与吉じいさについては、その人物像や太一との関わりだけでなく、父との対比にも意識が向くように、言葉かけを行う。 ◆ 比喻や反復などの表現の工夫に気付き、そこから人物像を想像している。【知識・技能】
	4 5	<ul style="list-style-type: none"> ○ 太一の、山場場面における葛藤や、「海の命」と共に生きることを選択した際の心情を考え、太一の変容を図化してポスターにまとめる。 ○ 物語の主題を推測し、班ごとにポスターにまとめる。 ○ 学習目標Ⅰの振り返りを行い、周囲の人物と主題との関わりを「読みの観点」としてまとめ、習得する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 太一の葛藤と選択を想像できるように、与吉じいさと父の見方・考え方を関連付けて板書する。 ○ 「村一番の漁師」と「一人前の漁師」を比較したり、「クエ＝海の命」が象徴するものを考えたりすることで、太一が選んだ生き方・考え方という主題に迫ることができるようにする。 ◆ 登場人物の人物像や相互関係、心情を具体的に想像し、物語の主題を捉えている。【思考・判断・表現】 ◆ 太一の変容や主題について、友達と話したり、ポスターに書いたりしようとしている。【主体的に学習に取り組む態度】
学習目標Ⅱ 自分の生き方・考え方を、中心人物に影響を与える周囲の人物を書いて表現しよう。			
	6	<ul style="list-style-type: none"> ○ 学習目標Ⅱを知り、見通しをもつ。 ○ 学習目標Ⅰや既習単元で学んだ「読みの観点」を想起し、表現活動に使えるようなものを選ぶ。 ○ 自分が物語で伝えたい生き方・考え方と大まかな設定を考え、構成メモを書く。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 学習目標Ⅱへの意欲が高まるように、5年次に作った物語集を提示し、6年間の集大成となる文集を作ることを伝える。 ○ 児童のレディネス調整のために、出てきた意見を板書し、選びやすくする。特に『海の命』内で用いられているものに関しては、文中の言葉に返して確認することで、使い方や効果を想像しやすくする。 ○ 学習目標Ⅰで習得した「読みの観点：周囲の人物が中心人物へ与える影響から、物語の主題を捉える」を応用しやすくするために、学習目標Ⅰのポスターを改変した構成のワークシートを用いる。
	7 (本時)	<ul style="list-style-type: none"> ○ モデル構成メモを用いて、交流の視点を確認する。 ○ 持ち寄った構成メモを用いて交流を行い、必要に応じて加除修正する。 ○ 期間を空けて、宿題で清書を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「伝えたい生き方・考え方は伝わるか」「周囲の人物が中心人物へ与える影響は、生き方・考え方につながっているか」という着眼点に意識が向かうように、モデル構成メモを提示する。 ◆ 登場人物の相互関係を基に、自分の生き方・考え方を伝える物語の構成を考えている。【思考・判断・表現】
	8	<ul style="list-style-type: none"> ○ 完成した清書を、前時と同じペア同士で読み合う。 ○ 学習目標Ⅱの振り返りを行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 構成メモにある生き方・考え方が主題として読み取れるか交流することで、他者からの評価を得られるようにする。 ○ 自己評価の観点を示すことで、「読みの観点」の更新をメタ認知できるようにする。 ◆ 他者と話し合ったり、物語の構成を考え直したりする中で、粘り強く物語作りに取り組んでいる。【主体的に学習に取り組む態度】
	「予期」		
	「再考」		
	「評価」		

6 本時の指導（7／8）

(1) 目標

自分が書いた構成メモを他者と交流する中で、「読みの観点:周囲の人物が中心人物へ与える影響から、物語の主題を捉える」を応用した構成や表現ができるようにする。

(2) 評価規準

イ 自分の生き方・考え方が伝わる物語になるように、中心人物が周囲の人物から影響を受けるより良い構成を考えている。 【思考・判断・表現】

(3) 展開

学習活動と児童の反応（こころ）	形態	教師の働きかけと形成的評価（◆）
1 前時までの学習を振り返り、本時の活動に見通しをもつ。 (5分)	全	1 本時の活動に見通しをもてるように、学習目標Ⅱと学習計画を確認し、本時のめあてを作る。
めあて 自分の生き方・考え方が読み手に伝わるか確認し、より良くなるように練り上げよう。		
2 モデル構成メモを読み、本時のゴールに見通しをもつ。 (15分) (1) モデル構成メモで、教師が伝えたかった生き方・考え方は何か考える。 ・やりたいことは主張することが大切。 ・何でも楽しければよい訳ではない。 ・やらない後悔より、やる後悔。	全	2-(1) モデル構成メモの概要は次の通りである。「教育実習生とのお別れ会を楽しく過ごそう」という意見が占める学級会。最後を感動的に終わりたい私は、母や先生の助言を受けて本音を提案する。その提案が通り、感動的なお別れ会を行うことができた。」
(2) 生き方・考え方が伝わるより良い物語になるように、周囲の人物との関わりを考える。 ・先生が何でも見透かしている人物像なら、そんな感じの台詞があるといい。 「○○さん、言わないままで後悔しませんか？」とか。 ・山場の場面で、母に言われた言葉が頭をよぎり、決断するなんてどう？ ・教育実習生との思い出を回想するシーンがあれば、感動的に終わりたいという中心人物の思いが、もっと強調されるよ。	個 ↓ ペア ↓ 全	2-(2) 本単元で新たに学んだ「読みの観点」に注目できるように、モデル構成メモを用いて、伝えたい生き方・考え方が、人物関係図と変容図から伝わるか問う。その際、生き方・考え方に着目できるように、クイズ形式で隠して提示する。 2-(3) 生き方・考え方を伝えたいうえで、それがより良く伝わる構成にするためのアドバイスを請うことで、活動3における話し合いの視点を確認する。
3 自分の構成メモを加除修正する。 (20分) (1) 友達と構成メモを読み合い、交流する。 (2) 友達の意見を基に、必要に応じて自分の構成メモを加除修正する。 ・山場を、情景描写を交えて書くことで、主役の葛藤を強調できると思う。 ・展開部分で主役の弱さを際立たせたら、その後の変容が目立ちそう。	ペア ↓↑ 個 ↓↑ ペア	◆ モデル構成メモを読み、中心人物の生き方・考え方が伝わるように、周囲の人物との関わりを考えることができる。(発言)【思・判・表】 ○ 周囲の人物との関わりの中でアドバイスを考えている。 → 母や先生の助言について、どうすれば助言を強調できるか考えるように促す。
4 本時の学習を整理し、次時に見通しをもつ。 (5分)	全	2-(4) 出てきた意見を参考に、友達の構成メモを読む際も、「生き方・考え方は伝わるか」「周囲の人物が中心人物に与える影響は、生き方・考え方に繋がっているか」について交流し、必要に応じてアドバイスし合うように伝える。 3-(1) 友達からのアドバイスを忘れず取り入れられるように、交流中にアドバイスを受けた場合、その場で構成メモに加除修正してもよいことを伝える。 3-(2) 机間指導を行いながら、児童のアドバイスを「読みの観点」と関連付けて板書していく。その際、学習の整理をする時間を見越して、一部を穴埋め形式で板書する。 3-(3) 構成メモの内容が薄い児童については、教師とペア対話を行う。板書を参考にしながら、生き方・考え方が伝わる構成を一緒に考える。
		4-(1) 板書を用いて児童のアドバイスを振り返り、穴埋めをしながら、どのような工夫が、どのような効果を生むか整理する。 4-(2) しばらく期間を設け、宿題として清書することを伝える。 4-(3) 次時は、清書してきた物語の交流を行うこと、自分の表現を「評価」することを伝える。